

## くすり一口メモ

## 総合感冒剤の禁忌項目

医療用医薬品の分類に用いられる日本標準商品分類の中に、総合感冒剤（分類番号118）の項目があり、その中でよく処方される薬剤としてPL顆粒（塩野義製薬）とダン・リッチ（住友製薬）があります。これらの薬剤はその使用に際し、禁忌項目が多く設定されている薬剤としても知られています。平成13年に日本薬剤師会が発表した「院外処方箋の疑義照会と当該医薬品の分析」では、“投与禁忌で疑義照会した医薬品の薬効別分類”の中で、総合感冒剤が全体の26.5%を占め、照会頻度の最も多い薬剤として報告されていました。照会後は医薬品が変更されたものが59.1%、処方から削除されたものが38.1%となっていました。

以下、「PL顆粒」と「ダン・リッチ」の禁忌項目とその理由についてまとめてみました。

| 禁忌項目   | PL顆粒 | ダンリッチ | 理由   |
|--|------|-------|--|
| 配合成分、サリチル酸製剤、フェノチアジン系化合物又はその類似化合物に過敏症の既往歴のある患者 |      |       | 再投与により重篤な過敏症を起こすおそれがある。  |
| 配合成分に対し過敏症の既往歴のある患者                            |      |       | 再投与により重篤な過敏症を起こすおそれがある。  |
| 消化性潰瘍のある患者                                     |      |       | サリチル酸製剤による胃粘膜に対する直接的障害と出血作用の報告がある。   |
| 気管支喘息のある患者                                     |      |       | 抗コリン作用により喀痰喀出困難をきたし喘息を悪化させるおそれがある。   |
| アスピリン喘息又はその既往歴のある患者                            |      |       | サリチル酸製剤はアスピリン喘息を誘発させるおそれがある。   |
| 昏睡状態又はバルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者       |      |       | メチレンジサリチル酸プロメタジンの中枢神経抑制作用により、昏睡状態が増強、持続するおそれあり。バルビツール酸誘導体、麻酔剤の併用時に中枢神経抑制作用の増強や、麻酔剤の作用時間延長の可能性あり。 |
| 緑内障の患者   |      |       | 抗コリン作用により眼圧が上昇し、緑内障を悪化させる可能性がある。   |
| 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者                          |      |       | 抗コリン作用により膀胱括約筋が収縮し、排尿困難を悪化させる可能性がある。   |
| 重篤な心疾患のある患者                                    |      |       | 交感神経刺激作用と抗コリン作用により、心機能亢進や不整脈の可能性ある。  |
| 高血圧症の患者  |      |       | 交感神経刺激作用による末梢血管収縮のため、血圧上昇が考えられる。   |
| 脳出血の既往歴のある患者                                   |      |       | 過量投与により脳出血の危険性が高くなる。   |
| 重症筋無力症のある患者                                    |      |       | 抗コリン作用により症状悪化の可能性あり。   |
| 麻痺性イレウス又は重篤な潰瘍性大腸炎のある患者                        |      |       | 抗コリン作用により腸管運動が抑制され、症状悪化の可能性と、潰瘍性大腸炎の患者は中毒性巨大結腸が現れる可能性がある。  |

(鹿児島市医師会病院薬剤部 寺師 守彦)